

# 透析患者において血糖変動幅が大きいと HbA1c とグリコアルブミン (GA) 比は乖離する -皮下連続式グルコース測定 (CGM) による検討-

長崎腎病院

○矢野利幸 吉野秀章 高木伴幸 原田孝司 船越 哲

## 【背景】

昨年日本透析医学会の「血液透析患者の糖尿病治療ガイド 2012」において、血糖管理の指標は GA を推奨しているが、従来広く用いられてきた HbA1c との相関については詳しく触れられていない。

## 【目的】

当院血液透析患者における GA と HbA1c との相関とこれに与える因子を検討する。

## 【対象・方法】

当院の糖尿病血液透析患者 62 名において、GA と HbA1c の両者を測定し、これと年齢・性・ESA 投与状況など、加えて CGM にて測定した血糖値の変動幅 (Mean Amplitude Glucose Excursions、MAGE) との関連について検討する。

## 【結果】

平均年齢は  $62.7 \pm 19.1$  歳 (男性 47・女性 15 名)、糖尿病罹患歴は  $14.4 \pm 7.8$  年、透析歴は  $2.7 \pm 2.1$  年、平均 HbA1c は  $6.4 \pm 2.5\%$ 、平均 GA は  $24.5 \pm 7.7$  g/d l であった。ESA は 82% に投与されていたが、GA/HbA1c 比では ESA 量との明らかな相関はみられなかった。一方、GA/HbA1c 比と MAGE に有意な正の相関がみられた ( $R^2=0.1993$ )。

## 【考案】

今回の検討で血糖変動幅が大きくなると GA/HbA1c 比が大きくなる、つまり HbA1c は GA に比べて過小評価されていることを念頭におくべきである。